

川崎市総合計画市民検討会議 第3回全体会
議事録

日 時 平成27年3月1日(日) 9:30~12:30

会 場 川崎市役所第4庁舎4階会議室

出席者

委 員 磯崎コーディネーター、荻原委員、外山委員、青柳委員、加藤英雄委員、
新富委員、馬場委員、松本委員、岡田委員、飯田委員、片山委員、
加藤浩照委員、辻委員、小池委員、山下博子委員、山下千裕委員、後本委員、
市 側 福田市長、瀧峠総合企画局長、唐仁原都市経営部長、久万企画調整課長、
阿部企画調整課担当課長、宮崎企画調整課担当課長、田中企画調整課課長補佐、
山本企画調整課課長補佐、佐藤企画調整課担当係長

議 題 1 今後の会議の進め方について
2 グループディスカッション成果の共有
3 「文化・スポーツ・都市イメージ」に関するグループディスカッション

公開及び非公開の別 公開

傍聴者 1名

議事

開会

(司会 唐仁原都市経営部長)

それでは、定刻になりましたので、これより川崎市総合計画市民検討会議第3回全体会を開催させていただきます。進行を務めます、総合企画局都市経営部長の唐仁原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日皆さまのお手元にお配りしております資料を確認させていただきたいと思えます。本日お配りしている資料は、意見シート、参考資料5として第3部会議事録の以上2点でございます。事前配布資料をお持ちでない方がいらっしゃいましたら、事務局で予備がございますのでお申し出ください。よろしいでしょうか。

次に、本日の会議開催にあたりまして、いくつかご説明を申し上げます。この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき、公開とさせていただいておりまして、会議の傍聴、報道機関等取材を許可しておりますことをご了承ください。

本日は第3回の全体会ということで、この検討会議を設置いたしまして半年を経過しておりま

す。そろそろまとめに向かう時期にさしかかっております。そういったこともございまして、福田市長の方から一言ご挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(福田市長)

皆さま、おはようございます。本日も日曜日の午前中からお集まり頂きありがとうございます。第2回の全体会は1月25日ということで、1カ月ちょっと経ったわけですが、その際に皆さまからいくつかご意見をいただきました。1つ目は、どのように具体的な取組をまとめていくかが課題であるということで、2つ目は、有識者会議と直接議論する場が欲しいというご意見でした。2月に開催した有識者会議の中でも市民検討会議の皆さんと直接対話したいというお話がありましたので、是非実現したいと思っております。具体的な日程につきましては、改めてご相談させていただきたいと思っております。

もう1つの具体的な取組をどうまとめていくかということですが、皆さんにご議論いただいた内容は、後ほどイメージをご説明する「市民検討会議意見のまとめ(イメージ)」の中に記載し、基本構想や基本計画の中で、政策の基本方針や目標の中に反映させていくという形でまとめたいと思っております。具体的な施策・事業については、第3階層以下の実施計画に書き込んでいくこととなりますので、それはもう少し先ということになります。具体策については、予算やマンパワーがどれくらい必要か、法令に抵触していないか、地域の方をはじめとする関係者の理解が得られるかなど、1つ1つしっかり検討する必要があります。あるいは議会の議論を経なくてはならないということもあります。いただいた具体的なアイデアもたくさんありますので、それらをしっかりと受け止めた上で、実施計画の中で、実現可能なものについては盛り込んでいきたいと思っております。

2月6日に、平成27年度の予算案を発表いたしました。私が市長に就任して初めての、一から組んだ予算になりますが、これまで皆さんにご議論いただいた内容と方向性を同じくする取組が数多くあり、総合計画の策定に先立ち、来年度予算の中で実現しています。一例を申し上げますと、「市は、良い事業をいろいろとやっているが、まったく知らなかった。折角、良い取組をやっているのに、市民に伝わっていない。」というご意見をたくさんいただきました。このようなご意見を踏まえまして、今年4月からシティプロモーションの担当部署をつくります。これにより、市民の皆さんに市の活動がしっかり伝わるよう、戦略的に取り組んでまいりたいと思っております。その他、子育て・教育について、地域や多世代で支える枠組みが必要だというご意見をいただきました。たとえば、「地域の寺子屋」を今年度から始めていますが、来年度はこれを拡充し、さらに輪を広げていくなど、こういったことも予算の中に組み込んでおります。いずれにしても、皆さんのご意見がしっかりと総合計画に反映できるように取り組んでまいりたいと思っております。本日もご審議の程、よろしくお願いいたします。以上でございます。

(司会 唐仁原都市経営部長)

それでは、ここから議事に移りますので、進行をコーディネーターの磯崎先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(磯崎コーディネーター)

おはようございます。年度末の何かと慌ただしい時期にも関わらず、ご出席いただきありがとうございます。今回は第3回全体会となります。この間、第1部会から第3部会まで議論を行い

ましたので、合計で6回目の会合になります。皆さんはフル出場ですと5回ご出席いただいていると思いますが、今回も有意義な会議にしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の進め方ですが、三部構成でございます。最初に討議1ですが、今後の会議の進め方についてということで、市長からお話もございましたが、今まで検討してきたことを、どう総合計画づくりにつなげていくのかという課題についてでございます。私と事務局とで打ち合わせをさせていただき、こんな形でまとめたらどうだろうかというたたき台を、事務局に整理していただきましたので、これを基に議論していきたいと思っております。

討議2は、第2回全体会、第3部会でご議論いただいた「防災・コミュニティ」、「暮らし・交通」のテーマについて、どういう議論が行われたか報告していただき、皆さんと共有したいと思います。

それから休憩を挟みまして、討議3として、グループディスカッションを行います。今回は最後のテーマで、「都市イメージの向上と情報発信 ～文化・スポーツなど川崎の魅力を活かしたシティプロモーション～」という課題です。大変幅広いテーマですが、皆さまが思っておられることをお話しいただき、面白い議論ができればよいと思っております。

それでは、討議1に入りたいと思っております。今後のスケジュールと第2回有識者会議の結果を一緒にご報告いただければと思います。事務局からご説明をお願いいたします。

(久万企画調整課長)

おはようございます。企画調整課長の久万でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、資料1「有識者会議・市民検討会議の流れ(案)」をご覧ください。市民検討会議の欄ですが、2月8日に第3部会で「暮らし・交通」のテーマについてご議論いただきました。

次に、3月1日の第3回全体会では、市民検討会議の意見のまとめ方等について議論させていただいた後に、「文化・スポーツ・都市イメージ」についてご議論いただくという形で考えてございます。

その後、第4回全体会を4月25日に設定させていただいております。こちらは、本日ご提示させていただく内容を含め、まとめの議論をさせていただければと考えております。有識者会議と合流した意見交換について前回ご提案いただきましたので、そこから線が右上に行って、6月に有識者会議第5回会議とありますが、磯崎先生と共に市民検討会議の委員の皆さまからも代表して何名かにご参加いただき、住民自治等の内容についてご議論いただければと考えております。全員参加という形になりますと、なかなか議論が難しいということで、やり方については磯崎先生とご相談させていただきたいと存じます。代表して数名の方にご出席いただくという形になるかと思っております。傍聴席をご用意させていただきますので、ご希望の方には傍聴していただくことも可能でございます。

最後に、市民検討会議第5回全体会が7月下旬でございまして、基本構想・基本計画素案の公表直前ということになります。こちらで素案の内容をご確認いただき、ここで区切りをつけさせていただきたいと考えてございます。スケジュールは以上でございます。

続きまして、資料2「川崎市総合計画有識者会議 第2回会議 開催結果概要」をご覧ください。こちらには、「社会福祉」、「子育て・教育」の分野について、2月1日に開催しました有識者会議で出された意見をまとめさせていただきました。2ページをご覧くださいますと、「(1)こ

れまでの検討状況」ということで、これまで市民の方々からいろいろなご意見をいただいた過程と、後の市民検討会議における意見のポイントということで、「多世代交流の場づくり」、「人材や資源の有効な活用」、「家庭・地域・行政などが共に連携して」、「効果やメリットの見える化でリアルに実感」の4点を、有識者会議の中で共有させていただきました。次に、「社会福祉」、「子育て・教育」の分野における本市の取組の方向性ということで、各担当部局の局長から説明させていただいた後に、有識者からいただいた主な意見を記載したものが、3ページでございます。まず1つは「新たな総合計画への市民意見の反映について」でございます、市民検討会議と有識者会議の双方が一同に集まる機会を設定した方がよいという意見をいただいております。その下の「*」ですが、「区役所の役割・権限や行政のガバナンスについて」ということで、「区ごとに地域性や区民ニーズが異なるために、区役所においても自発的に判断できる裁量や権限、仕組みが必要。ただし、行政内部のガバナンスの問題もありますので、議論を深めていく必要がある」という意見をいただいております。「②子ども・教育、社会福祉分野における本市の取組の方向性について」のご議論につきましては、「*」の「きめ細やかな子育て支援サービスの展開」ということで、3つ目の矢印に書いてございますように、「社会全体で子どもを育てる観点から元気な高齢者の活用、多世代交流の場づくりは大賛成」という市民検討会議での意見も総括されています。また一番下にありますように、「小児医療費の助成対象年齢を拡大していくためには、財政状況を勘案し、他の予算を削減するなど、行財政改革とセットでの検討が必要。行政・市民両者それぞれの覚悟も必要。」というような意見もいただいております。次の「*」でございますが、「都市公園の活用」ということで、こちらは「公園機能と保育所機能が上手く連携する仕組みができる」と、双方にとってプラスになる可能性がある。」という意見をいただいております。次の「*」でございますが、「学校と大学の連携や防災教育、学校施設の合築等による地域拠点化の推進」につきましては、4つ目の矢印にありますように、「高齢者施設や地域コミュニティ施設と合築するなどの検討が必要。」というお話をいただいております。次の「*」ですが、「社会的役割の付与と活動成果の社会還元による高齢者の内発的な健康づくりの推進」では、「これからの健康づくりについては、高齢者に社会的な役割や取り組むべきことがあれば、健康につながっていく」というようなお話をいただいております。次に「③人口動態や地域の計画単位等について」ということで、「人口動態を踏まえたライフステージ戦略の検討」が必要だということ。次の「*」にございますように、「地域における最適な計画単位の検討」ということで、「区や、小・中学校区など、サービスに応じた計画単位の検討が必要だ」という意見をいただいております。簡単でございますが、私からの説明は以上でございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。続いて資料3について、事務局から説明があります。その後、全体の進め方などについてご質疑、ご意見をいただきたいと思います。資料3は、「川崎市総合計画市民検討会議 意見のまとめ (イメージ)」ということで、今回はイメージでございまして、内容を固めるのは次回になりますが、こういった形のまとめでよろしいかどうか、皆さんにお諮りしたいということでございます。事務局からの説明の前に私の方から簡単に趣旨をお話したいと思います。

1ページを開いていただきますと、目次がございます。全体で3つの章になっていますが、こ

の間、皆さんにご議論いただき、数々のご提案をいただいておりますので、それらをどう総合計画に反映させるかが非常に重要でございます。そのため、基本構想・基本計画に反映させるべき内容として、この検討会議の意見をまとめたものが第1章となります。「1」として「各政策分野に共通して大切にすべきこと」を記載し、各政策分野ごとのまとめを「2」から「6」までに記載しております。このように、これまでの議論を総括的にまとめたものを第1章として、報告書の中核にしようということでございます。

第2章は、それぞれの分野ごとに個別の有意義な意見をいただいておりますので、それらを網羅する形で記載しております。

第3章は、この会議でも新しい提案になろうかと思っております。先ほど市長から力強いご発言をいただきましたので、中核部分は総合計画の中にしっかりと反映されるのではないかと思います。総合計画自体は行政としてまとめる、いわゆる行政計画でございますので、第1章、第2章がそのまま総合計画に盛り込まれるわけではございません。また、今まで自助・共助・公助と3つに分けて、自助・共助についても、市民としてこういうことをやりましょう、あるいは地域でこういうことをやりましょう、という意見がかなり出てきたと思います。この自助・共助については、総合計画の本文には我々の提案が十分反映しない、市民に届かないというのも残念だと思いたしましたので、「市民から市民へのメッセージ」という形で第3章を設定し、これについては基本的には総合計画にそのまま載せていただくということを提案したいと考えております。総合計画には、基本的には行政が何をやるかという公助の部分を書き込むものですが、自助・共助についても、市民検討会議からのメッセージというかたちで、四角囲みのコラムのような形でそれぞれの分野の章の最後のあたりに、我々の直接の言葉でメッセージを入れてもらうことを考えてはどうだろうかと思っております。これについて、もしご賛同いただけるようでしたら、次回その内容を検討したいと思っておりますが、限られた時間の中で細かい文章づくりまで行うことは大変だと思っておりますので、次回までに事務局に「たたき台」をつくっていただき、次回全体会で修正をし、我々から市民へのメッセージとしたらどうかと思っております。

前置きが長くなりましたが、事務局からご説明をお願いいたします。

(阿部企画調整課担当課長)

担当課長の阿部でございます。磯崎先生から大部分をご説明いただきましたが、資料3の中身についてももう一度簡単に趣旨をご説明したいと思っております。もともと磯崎先生から、「市民検討会議の議論がしっかりと記録され、委員の皆さまと行政の内部がそれらをしっかりと共有できるように形に残しておく必要がある」とご助言いただいたものを、このような形でお示しさせていただきました。

1枚めくっていただきまして、「はじめに」とありますが、こちらは委員の皆さまの言葉で書くイメージでございます。現時点では仮置きですが、市民検討会議が発する言葉として、この会議の成果ですとか、市民の皆さまで議論したことの意義ですとか、今後への期待にもつながるようなイメージで載せたいと考えており、コーディネーターの磯崎先生ともご相談しながら書き起こしていきたいと思っております。目次につきましては、磯崎先生からお話がありましたので、構成はご理解いただけたかと思っております。

1ページをご覧くださいませでしょうか。第1章は「市民検討会議 意見のまとめ」ですが、

ここでは、成果や議論の主旨を説明する文章を最初に入れており、議論の経過をお示ししてごさいます。次のページは、初めて皆さまが目にする部分かと思ひます。これまでの会議でいろいろとご議論いただきましたが、共通するいくつかの大切な視点が出てきていると考えております。そのような「各政策分野の議論を通じて大切にすべきこと」をまとめてごさいます。本日も新たなテーマについての議論がごさいますので、また新たに出てくるかもしれませんが、「多世代交流の場づくり」ですとか、「人材や資源の有効活用」などの視点についてまとめてごさいます。

3 ページ以降は、各部会の議論を通じていただいたご意見でごさいます。たとえば第1部会の「社会福祉」では、高齢者福祉に絞ってご議論いただきました。最初の文章は、各会のまとめのねらいのようなことを書かせていただいております。囲みの中は、少し形が変わっているのひ初めてご覧になるような印象をお持ちになるかもしれませんが、既に第2回全体会でご確認いただひている議論のまとめでごさいます。高齢者に関してましては、まず「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」という視点からのご意見とその後にキーワードという形でまとめております。次のページでは、「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」という視点からのご議論を示しております。6 ページでは、「子育て・教育」についての第2部会の議論のまとめを載せてごさいます。9 ページにまいりますと、「防災・コミュニティ」について、第2回全体会でいただいたご議論で、こちらにつきましては、本日この後内容の確認をしていただくことひなります。12 ページからは、第3部会でご議論いただきました「暮らし・交通」に関するまとめがきますが、こちらも同様に本日確認していただく予定でごさいます。14 ページの「文化・スポーツ・都市イメージ」は、この後グループ討議をしていただくテーマでごさいます。そちらで出たご意見をまとめていきたいと思ひます。こちらは第4回の全体会にはお示し、ご確認いただくことひなるかと思ひます。

15 ページ以降は第2章になり、「各テーマにおけるグループディスカッションの意見一覧」でごさいます。磯崎先生がお話されたように、すべての意見をここに掲載してごさいます。16 ページの「社会福祉」で見方をご説明いたします。初めに「グループディスカッションでの意見」ということで、皆さまがお書きになったポストイットを一つひとつすべて載せてごさいます。区分は「支援が必要な高齢者」というように、ご議論いただいた視点ごとにまとめており、次の列は、ファシリテーターによる意見のグルーピングで、それに付随するご意見が一つひとつごさいます。ポストイットのご意見は、読み手に伝わりやすいように、事務局で少し言葉を添えたり、語尾を整えたりをしましたが、趣旨は変えていないつもりでごさいます。一番右側の黒丸は取組の主体でごさいます。自分、共助、公助とありますが、それぞれの分類はファシリテーターにより整理させていただきます。19 ページにまいりまして、「意見シートでの意見」とごさいます。グループ討議ではなく、各会議の終了時にいただきました意見シートに書かれたご意見を掲載してごさいます。26 ページまで同様の構成にまとめられております。

27 ページは第3章「市民から市民へのメッセージ（案）」というひことで、磯崎先生からお話がありましたとおり、この会議では自助・共助についての議論をしっかりしていただいたことが特徴だと思ひております。それを総合計画に活かす方法がないかというひことで、磯崎先生から「市民から市民へのメッセージ（案）」をご提案いただきました。28 ページをご覧いただけますでしょうか。たとえば、「社会福祉」で例を申し上げますと、「みんなで取組もう 私たちができる

こと」が案として出ていますが、このように少しやわらかい表現があってもよいと思います。「超高齢社会においても生き生きと暮らし続けることができる地域の支え合いのために」ということで、「地域の高齢世代同士や世代間で支えあうためには、支援が必要になる前から近所の人たちとの顔の見える人間関係をつくることが大切です。挨拶や声掛けから始めて、地域に知り合いや友達をつくりましょう。」と、ソフトな呼びかけにイラストを添えてつくっております。このようなメッセージを新たな総合計画の政策分野のページと関連づけて、コラム的なイメージになるかと思いますが、掲載したいと考えております。すべての分野ではありませんが、今後、中長期的に重要となる分野についてご議論いただきましたので、市民の皆さまや地域主体の取組と行政の取組が相まって地域の課題に取り組むことを総合計画でお示しできればと思っております。また市民の皆さまに実感を持って総合計画をご覧いただければと思っております。資料3の説明につきましては以上でございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。大変丁寧につくられておりまして、非常に出来が良いと思っております。資料1, 2も含めてご意見、ご質問はございますでしょうか。資料3につきましてはあくまでもイメージでございますので、このような形でまとめるということについてどうかという点を中心にご議論いただき、中身そのものについては次回の第4回全体会で議論したいと思います。

(岡田委員)

非常に丁寧につくられていると思いましたが、しかし、総合計画の資料について、市民への情報発信を目的にするのであれば、情報過多ではないでしょうか。第1章を見てもキーメッセージを絞り込んで明確にするべきだと思います。この量のメッセージを受け止めるには無理があるのではないのでしょうか。

(磯崎コーディネーター)

第2章だけでなく、第1章もボリュームがありすぎということでしょうか。

(岡田委員)

第2章以降は附属資料ですので、ボリュームがあってもよいと思います。第1章はもう少しまとめる必要があると思います。

(片山委員)

すべての意見を一覧表にするのはいいのですが、それぞれの意見と、具体的なアクションプログラムとの結びつきが明確になるようまとめていただきたいと思います。

(荻原委員)

前回の第3部会では、時間が足りず、意見が薄れてしまった部分があります。追録の機会はスケジュールにどう位置づけられるのでしょうか。

(阿部企画調整課担当課長)

ボリュームがありすぎというご意見に関して、たしかにボリュームが多いので工夫の余地があればご意見をいただければ伺いたいと思います。ただ、四角囲みのゴシック体のキーワードをまとめの言葉としてご覧いただければ、要点は上手く伝わるのではないかと思います。さらに詳細にお読みになるかどうかは、読み手に委ねてもよいのではないかと考えており、あくまで記録として、皆さまにご確認いただいたことをそのまま載せるという趣旨で作成したイメージだとご

理解いただきたいと思います。そのイメージをどのようにしていくかは、もう少し皆さまでご議論していただければと思っております。アクションプログラムに結び付くものを明確にするということについては、施策にどう結び付けるかというお話になるかと思いますが、これは皆さまのご意見の記録で、しっかり残すというのが1つの目的で、施策に結び付く、結び付かないという部分については、市長から申し上げたとおり、いろいろな角度から市として検討をしていき、来年度末に実施計画の中で形にしていきたいと思っております。

今後追録の機会が設けられるのかというご質問に関しては、皆さまのご議論の上でまとめていただき、確認していただいたものを掲載しておりますし、スケジュール的には、本日ご議論いただいた内容で事務局が準備したものを確認いただくのが次回の第4回全体会の目的になりますので、時間的に少し難しいかと思っております。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございます。3点目の追録に関しては、大きな話であれば、第4回全体会で取り上げててもよろしいかと思っております。それぞれのテーマについて個別的なことを議論することは、時間的に難しいと思っております。

(松本委員)

一般の市民の方のパブリックコメントと、私たち市民検討会議の意見の関連性はどのように表れてくるのでしょうか。私自身は、市民の代表だという意気込みで会議に臨んでいますが、その後に行われるパブリックコメントとどう関係してくるのか、教えていただきたいと思っております。

(岡田委員)

自助・共助・公助という考え方で議論をしてきましたが、総合計画を考える上で、周辺自治体との差別化をする必要性についてお話させていただいたのですが、前回十分説明できなかったため、資料にまとめ、提出させていただきました。2つの政策の柱として、「安心のふるさとづくり」と「力強い産業都市づくり」を挙げていますが、周辺の自治体と比較して劣っている部分があることにより、「安心のふるさとづくり」が政策として十分でない状態になっているのではないかと感じています。産業に関しても同様で、キーメッセージを川崎市としてステークホルダーに伝えていかないと、「強い産業都市づくり」もままならないと思っております。詳しくは資料を見ていただければと思います。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございます。今のご意見は、シティプロモーションという観点で、この後のグループディスカッションのテーマにもつながる可能性がありますね。

(片山委員)

今のお話に関連して、シティプロモーションについてですが、これは総花的な施策ではなく、何か1つでも全国的・国際的に牽引できるモデルでないと効果が上がりません。すべてが平均的なものになってしまわないよう、1つステータスになるものをつくっていく必要があると思っております。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございます。シティプロモーションに関するご意見については、今のようなお話も含めて、この後のグループディスカッションの中でご議論いただきたいと思っております。松本委員

からのご意見について、事務局からご説明をお願いします。

(阿部企画調整課担当課長)

総合計画の策定に当たり、市民の皆さまからご意見をいただいております。市民検討会議も3分の2の委員の皆さまは、各区で行いました市民検討会から引き続きこちらにご参加いただいております。このように、なるべく議論をつなげられるようにという工夫をさせていただいております。その他に、策定方針を昨年8月末にまとめており、総合計画の検討方法を市民団体の皆さまにご説明する機会を設けております。7月、8月ぐらいまでに基本構想・基本計画素案をまとめてまいりますので、その段階では広くパブリックコメントをかけていく予定でございます。この会議でいただいたご意見と、こちら以外でいただくご意見は方向性を同じくするものが多いと感じておりますが、できるだけ関連付けて整理していくように努めていきたいと考えております。

(加藤英雄委員)

理念としての基本計画策定に市民が関わっているのは理解できますが、市民感覚としては具体的なものが見えてこないと思感できないと思います。たとえば、10年後はこうありたい、予算案はここまで反映しているなどといった点を基本計画の中で出していけば、より市民に伝わると思っています。

(荻原委員)

岡田委員のお話された差別化について賛成です。川崎市は流入人口が流出人口を上回っています。有識者会議の中で、川崎市に越してきてそのまま留まりたいかというのが課題だというお話がありました。市民でない有識者会議の方から良いヒントをもらい、市民である我々が作り上げていくのが、この検討会議なのだと思います。これがあるから川崎市にずっと住み続けると言えるように、他都市との差を明確に出していただきたい。川崎市はこうだというイメージをつくるのが大事だと思います。公害イメージのあった川崎市としては、健康維持についてアピールしていくべきです。

(後本委員)

有識者会議に市民検討会議から参加するのは6月となっておりますが、もう少し早めて、第3回か第4回の有識者会議に出席して、有識者の方の意見を市民検討会議でフィードバックしてはどうでしょうか。

(阿部企画調整課担当課長)

加藤委員からのご指摘の具体的な取り組みについては、施策・事業レベルでということになりますと、様々な角度からの議論が必要であることをご理解いただければと思います。また、基本構想・基本計画は、長期的な視点なので、どうしても抽象的な表現になってしまうのですが、できるだけ工夫していきたいと思っております。

有識者会議への参加のスケジュールは、皆さまが参加するのに、有識者会議でのテーマとして親和性があるかどうかということと、この有識者会議とのリンクの話が出たのが少し遅かったため、スケジュール的に第5回を目指さざるを得ませんでした。

(磯崎コーディネーター)

この第5回は、我々の委員の中から何人か参加し、有識者会議で問題提起することになります。

私も出席いたします。

(飯田委員)

「市民から市民へのメッセージ」について、確かに自助・共助は重要ですが、行政としてどうやって市民の行動を促すのかを考えないといけないと思います。このメッセージがその手段だとすれば、自助・共助の重要性をまずアピールするべきであり、この「メッセージ」の前段でその点をしっかり記載しないと、市民には伝わらないのではないのでしょうか。

(磯崎コーディネーター)

アピールの仕方も、もう少し重要性が伝わる方法で、メッセージをあげるべきというご意見ですね。

(新富委員)

市民検討会議の委員の意見を、地域の事業にも有機的につなげてほしいと思います。

(磯崎コーディネーター)

岡田委員の第1章のボリュームの点についてはいかがでしょうか。もう少し絞った方がよいのかどうか。ただ、絞るとなりますと、項目を落とすという作業が出てくるという問題があります。1ページに1つの項目で、まとまりは悪くないというのが私のイメージです。ポイントを明確にするのは重要かと思いますが。

(馬場委員)

文章量は多いと感じました。太字は単にキャッチフレーズでしかなく、これが具体的な施策と結びつかないと読み飛ばしてしまうと思います。また、たとえば、3-(1)の3番目にある「安心・安全に楽しく遊べる遊び場づくり」などは、当たり前のことであり、これがどう施策につながっていくのか分かれば、読み手にも伝わるのではないかと思います。

(加藤浩照委員)

この資料は、あくまで会議で出された「意見のまとめ」であって、実際にこういう議論をしてきたわけですから、会議でまとめた意見を取捨選択して削るのも不公平というか、おかしいわけで、これはこれで良いと思います。市民向けのPRを重視するのであれば、これとは別にパンフレットのような形でまとめたものを出せばよいのではないのでしょうか。

(片山委員)

この市民検討会議から出た意見をアクションに結びつけられれば、意見の位置づけをはっきりさせることができるのではないのでしょうか。

(磯崎コーディネーター)

この文章としては今までの議論を忠実にまとめたということで、それをアクションプランにつなげるには、資料と言いますか、何らかのかたちが見えればよいということでしょうか。7月に第5回全体会が予定されていますが、この時に基本構想・基本計画素案が出てくると思います。市がまとめるものについて我々の意見が反映されているか、基本計画レベルでは確認することができます。その後の具体的な施策については、実施計画にすぐ結び付くような内容をまとめるのはむずかしいかと思いますが。ただ、最終的にこうつながったということを確認できる時間なり、資料が必要ということでしょうか。

(片山委員)

議会の承認などあるでしょうし、結果的に実現しなくてもやむを得ないかもしれません。しかし、例えば、議会に取り上げてもらうといった過程もアクションプランの1つだと思います。

(福田市長)

具体的な取組に踏み込んだ議論になっていますが、具体的な施策・事業を検討するためには、その前提となるしっかりした構想・ビジョンが必要です。構想・ビジョンと具体的な事業とは一旦切り離して考えないといけないと思います。その構想・ビジョンに当たるのが基本構想・基本計画であって、それを検討していただくの市民検討会議だと思います。たとえば、待機児童に関する議論の中で、数の上での“待機児童ゼロ”だけでなく、質も伴う“実感ゼロ”を実現して欲しいというご意見をまとめていただきました。第2回全体会で、新たな総合計画の冊子イメージをお示しして目標設定の考え方をご説明したかと思いますが、こういった意見のまとめが目標として基本計画の中で設定されていきます。それに向けての実施計画では、実感できるようにするための細かい予算づけをしていくことになり、そこまでこの検討会議で議論することはできません。「基本構想」、「基本計画」と「実施計画」は区別して議論していただく必要があると思います。

(岡田委員)

アクションプランは行政が策定していただくということでよろしいかと思います。その上のレベルの目標を設定、たとえば、満足度が高いか低いかはアンケートを取ったとしても、非常に測りづらいと思います。もっと明確に川崎市として子育て世帯にどのくらいの数値目標を設定するのかというところで、たとえば小児医療に関して、所得制限があることによって就学前世帯が川崎市から流出し、流入より流出が上回っているのも、その世帯層に集まっているのではないのでしょうか。また、就学前の政策は充実していますが、それより先については政策が薄いため、その層の流出が多いのではないかと思います。また、所得制限を設けていることで、高所得者が川崎市に住むメリットがなく、こういった層の人口をどれくらい増やすか、こういった層の方を呼び込むかといった議論が必要だと思います。そのためにこういった施策をとるのは行政に考えていただければと思います。

(福田市長)

そういった議論を行ってきたと考えています。たとえば就学前についてはよくやっているが、学齢期を越えたところについては薄いというのは、この市民検討会議でもかなり出ていたご意見だったと思います。基本計画の中で受け止めて、具体的な施策につなげていきたいと考えています。おっしゃることも、この意見まとめの中にしっかり入っていますので、大丈夫です。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。大変重要な議論をしていただいたと思います。他にございますか。

それでは、討議2でございます。グループディスカッションのまとめについて、事務局からご説明をお願いいたします。

(宮崎企画調整課担当課長)

企画調整課の宮崎でございます。資料4と資料5ですが、資料4は第2回全体会でご議論いただいた「防災・コミュニティ」でございまして、皆さんにまとめていただいた内容を資料の形にしたものでございます。3ページにあるような模造紙のグループごとのまとめを自助、共助、公助のキーワードでつくりなおしたものでございます。一番下キーワードは、磯崎先生にまとめて

いただいたものでございます。本日は資料5で、第3部会のグループディスカッションのまとめということで説明させていただきます。3枚目と4枚目で、当日の議論で共有した模造紙をまとめてございます。これまで自助・共助・公助ということで、最後にまとめておりましたが、見ていただくと分かりますが、若干公助が多くなっています。また、自助・共助・公助で、かなり共通する部分があるということで、今回、資料5の1枚目のまとめでは、地域交通と地域居住のそれぞれについて、話し合った論点をまとめてございます。まず、「超高齢社会に向けた地域交通のあるべき姿とは」ということで、都市構造や拠点整備ですとか、交通体系などの大きな話は、このテーマの始まる前にご説明し、全体で質疑等を行いました。それを踏まえて地域交通という身近な交通のあるべき姿とはということでまとめてございます。最初の3つのボックスがだいたい自転車に関連したもので、1つ目のボックスは地域特性に応じたもので、基盤の整備もルールもマナーも、北部ですと山・坂があり、地域特性に応じた取組が必要だろうというのが1点目でございます。2点目は、家庭・地域・行政が連携して、ルール、マナーに関して意識向上の取組をやっていくということでございます。自転車関係の3点目として、自転車利用環境の整備ということで、できれば自転車レーンがよいのですが、構造的に難しい場合は、車道の一部に青色で区分するのでもよいのではないかというお話もありました。4つ目のボックスは、本当に環境にやさしいのはウォーキングではないかということで、健康寿命を伸ばすということもございしますので、推奨すべきですし、地域、行政、市民だけでなく企業による支援があったらよいのではないかとございまして、次のボックスは、地域交通手段についてでございまして、ミニバス、コミュニティバスそのものも重要ですが、もっといろいろな手段を検討したらどうかということで、マイカーの乗り合いですとか、企業のバスを乗り合いするなどの話でございまして、コミュニティ交通と言いますと、収益性が非常に重要だということもございまして、それをいかにシェアしていくかということで、タクシーなども幅広く検討すべきではないかということでございまして、路線バスにつきましては、オンデマンド化によってもう少し使いやすいたらどうかというご意見もございました。また、山の多い北部に配慮し、場所ごとに考えるべきではないかということでした。次のボックスの場所のシェア、カーシェア等のシェアによる有効活用ということで、たとえば遊休地を活用し、買い物用の駐輪場やカーシェアの拠点といったものが考えられますし、あるいは、ショッピングバスを地域交通に使うことはできないか、ということがご意見としてございました。最後のボックスは、道路整備については、公共側の役割が多いということでしたが、かなり限られた財源の中ということで、プライオリティを明確化した道路整備の推進をすべきだということで、現在も優先順位をつけておりますが、それをより分かりやすくということもございました。右上の「2 少子高齢社会における地域居住のあるべき姿とは」についてですが、住まいに関しては、なかなか具体的にご意見が出てこないのではないかと、実はテーマ設定に非常に悩みました。議論させていただくと、かなりいろいろなアイデアが出てまいりまして、7点ほど挙げております。1点目は、「子育て世帯などが住み続けたい魅力づくり」、これはまさに住み続けたいということが重要で、そのための魅力づくりを進めるべきということでございます。これは本日のテーマにも共通するかと思います。2点目のボックスは、高齢者の視点で言いますと、セーフティーネットという視点が大事だということがありまして、3点目は若干高齢者がらみですが、ゆるやかなネットワークをすることによって一人暮らし・孤立のな

い地域づくりをしていくべきということでございました。4点目については、子育てから高齢者までいろいろ考えていきますと、地域で多世代が交流・同居できるしくみづくりが重要ということで、高齢者と若者のシェアハウスや保育園と高齢福祉施設の複合化などがございました。そういった交流ができる場づくりが重要だということでございました。また、親子で同居できるための改修支援といったアイデアがございました。次のボックスですが、ライフステージということで、既存の団地や空き家を活用し、ライフステージに合わせて住み替え、改修ができる、あるいは、川崎なら等価交換によって住み替えを促進していくということを概念として大きく打ち出すべきではないかという意見があり、民間と連携して賃貸住宅をどう流動化していくか、あるいは等価交換で住み替えができるということをアピールすれば、もっといろいろな人が住んでくれるのではないかということがございました。次のボックスで、公園の多機能化ということで、人の集まり易い場所ということで、公園を多機能化したり、地域で自主管理することも重要ではないかというご意見がございました。まとめで、20年後、30年後の長期を展望した施設計画をする必要があるということで、超高齢化を考えますと、施設を「転用」することを計画の段階から検討すべきだというご意見がございました。この1と2のテーマを全体でまとめて、磯崎先生からいただいたキーワードが一番下に4点ございます。「マナー」「意識向上」とうことで、自助、共助、公助それぞれですが、セーフティーネットや安全にも関わるということでございました。左から2番目、「シェア」「交換」ということで、場所のシェア、カーシェアといったことと、等価交換ということですが、これはそれぞれ別々に税金を使って何かをやるということではなく、ニーズが同じものはシェアし、異なるものは交換するというところでございます。両者はつながる概念としてまとめていただきました。次の「長期展望」「ライフステージ」ですが、高齢者が増えた時にどうなるのか、ライフステージに合わせて考えるべきということでございました。最後の「プライオリティ」ですが、若干公助に関するご意見が多かったということもありますが、財政が厳しい中で優先順位をつけることが不可欠だということで、全体をまとめていただきました。以上でございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございます。何かご質問はございますか。(質問・意見なし)

グループワークに際してはお手元のネームプレートとお荷物をお持ちになってお隣のグループワークの席にお進みください。休憩を挟みまして、55分から開始させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【休憩 (約 10 分)】

(磯崎コーディネーター)

それでは皆さんご着席頂きましたでしょうか。討議3に入りたいと思います。文化・スポーツ・都市イメージということで、グループディスカッションを進めたいと思います。設定して頂いたテーマは、「都市イメージの向上と情報発信」、サブタイトルは「文化・スポーツなど川崎の魅力を活かしたシティプロモーション」でございます。既に全体会でも何人かの方からご提案頂きましたけども、それぞれのグループでさらに議論を深めたいと思います。今日の議論は、自助・共

助・公助という3つの視点に加えて、「民間でできること」という視点も入れてもらっていますので、新たな切り口から良い議論ができるのではないかと考えております。

それではディスカッションに先立ちまして、事務局からこのテーマについてご説明頂きたいと思っております。お手元の資料と同じ内容ですが、スクリーンに投影しますので、見やすい場所に移動して頂ければと思います。それでは説明をお願いいたします。

(事務局から資料7に基づきスクリーンを用いて説明)

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。非常に興味深い内容だったと思います。それではグループごとのディスカッションに移りたいと思います。終了の時刻ですが12時を目安にお願いいたします。12時から、それぞれのグループからの報告をして頂きます。

(事務局)

それでは、3つのグループにわかれてグループディスカッションをお願いいたします。

本日は「文化・スポーツ・都市イメージ」というテーマ1つだけですので、まとまった時間での議論ができるのではないかと考えています。基本的なやり方はこれまでの部会と同様です。先ほどご説明いただきましたとおり、「自助」「共助」「公助」に加えて、「民間でできること」という視点で議論を進めていただきたいと思います。特に、これから何をすべきかについての議論をお願いしたいと思います。

最後に各グループで発表していただき、投票する予定でおりますので、そのことも念頭に置いて進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【グループディスカッション (約50分)】

全体会

(磯崎コーディネーター)

いろいろな議論が出たようですので、各グループから発表者を決めて報告をして頂きたいと思っております。グループ2分ないし3分で発表して頂きたいと思っております。それでは第1グループからお願いいたします。

発表

(第1グループ)

(松本委員)

それでは第1グループで話し合った結果を報告します。まず1つ目はイメージキャラクターの発掘活用ということです。ゆるキャラ、代表的著名人の活用、シティカラー、これは是非、今多くの人が持っている「灰色」のイメージから、明るい色のイメージへ転換したいということです。また市のマークの民間活用促進という案もでました。2つ目は先端企業とのコラボです。大学との連携、子どもが参加できる、いろいろな企業とのイベントを開催してもらいたいと思っております。

3つ目は自然を活用したイベントです。これは音楽フェス、スポーツイベント、それから子どもたちを巻き込んだ環境学習を含みます。4つ目は全国大会の誘致ということで、これは文化、スポーツの様々な面で、川崎で大会を開くことで、川崎に足を運んでもらいたいということです。最後に、海外・他都市へのアピールとして、例えばホームステイの受け入れ、障害者、高齢者のスポーツとして、パラリンピックを契機に、川崎はバリアフリーが充実していますという PR ができるような環境をつくる、という案がでています。その中での課題として、地域全体のイメージの確立、例えば川崎は住みやすいまちだというイメージを確立することを課題ととらえたときに、みんなが川崎に住みたくなるような目標の例として、ここに「若者の夢・キラキラ感」というキャッチフレーズを書きました。キラキラ輝いて、みんなが川崎に来たくなるようなイメージを持ってもらえたらいいなと意見が出ました。

(第2グループ)

(片山委員)

第2グループのまとめです。川崎市の評価・イメージを上げるには産業・研究開発、文化・芸術、スポーツの各分野で、国内的にも、世界的にも“断トツ”のものをつくりあげていくことが必須です。今までの公害のマイナスイメージを払しょくしながら、このことを推進するため、各地域にいろいろな資源がありますから、そのリソースを活かしていくことが重要です。もう一つ、人材活用が非常に重要ですから、市内にいる人材を活かして差別化を図っていくということです。例えば、研究開発の特区をもっと集約化・大規模化し、人材を含むリソースの相互連携で、世界的にも注目されるようなテーマを発掘・推進することも一つです。また、マイナンバー制度の発足も視野に入れ、医療・介護情報ネットワークシステムについて、全国に先駆けたモデルを川崎市で確立すれば、非常に注目されると思います。これにより、予防医療・介護も進み、コストの大幅な削減にもつながります。それから民間と連携した情報発信も重要です。例えば、キャッチコピーなどは素人ではできませんので、プロの力を借りる必要があります。プロと連携した観光ツアーのモデル化、パッケージ化をして売るといったようなこともやればいいのではないかと思います。また、企業の協力を得て、CSRといいますが、企業の社会貢献活動の一環として、地域の次世代の人材の育成に取り組んでもらうということもよいと思います。さらに、文化・芸術、スポーツで、いろいろなスキルを持ったアマチュアの人々の活動を活性化するために、市内の公共施設を開放することも一つのアイデアです。あるいは、企業にも協力してもらって、企業の施設開放や協賛を得ることも必要です。それらを通して、市民の間の文化・芸術、スポーツの振興を図ることが重要であると思います。

(第3グループ)

(荻原委員)

第3グループは5つのポイントでまとめました。もう少し集約すると3つになりますので順を追って説明します。最初に都市イメージの向上、情報発信を図り、シティプロモーションで川崎の魅力を活かすにあたり、そもそも川崎にある魅力を整理する必要があります。これを改めて整理・確認して、政策立案に臨むのが望ましいと思います。また、ライフステージにおいてそれ

ぞれの魅力は何か、世界で称えられるレベルの魅力を見つけることも大切です。既にある魅力を活かすということと、更に魅力を高めるための改善点もあるという議論をしました。既にある魅力については、音楽、大学、スポーツ、エネルギーに関する取組、産業集積、市民の積極性などがあります。一方で、改善すべきなのは、健康プログラムなど、公害の印象から脱するための意識です。タニタの長岡市との連携のように、川崎も健康プログラムを実施するという提案がありました。次は、市の美化というテーマも入ってきました。また、PRの効果を高めるため、伝える力を持つということが議論の軸でした。他都市との連携やグローバルな考えや差別化といったことが議論されました。最後に、市民が情報を受け取る力を持つ、受け取る力がなければ伝わらないという意見がありました。PR戦略を立てることについては、3番目の軸の戦略を高め、コンテンツ、媒体を良く考えて、PRを高めていくという手法です。

投票

(磯崎コーディネーター)

それでは、シール投票に移りたいと思います。自分のグループでも他のグループでも結構ですので、できれば集約した右側の箇条書きの部分に貼っていただきたいと思います。

講評

(磯崎コーディネーター)

投票は終わりましたでしょうか。私の方から確認しながらまとめていきたいと思います。まず第1グループでは、「ゆるキャラ」や「明るい色へイメージを転換する」という点に投票されています。また、「全国大会の誘致」あるいは「スポーツ・文化の醸成」に3票ほど集まっています。それから、「海外でのアピール」、「ホームステイなどを受け入れる」といったところにも、5つのシールが貼ってあります。この辺りが共感を集めていると思います。

第2グループでは、8つのシールが貼ってあるのが「イメージづくり」、「断トツ」という点で、特に各分野で国内外に注目されるものを確立するという意見に一番多くのシールが貼られています。それから「アマチュアの活動を活性化する」、「企業との協力」という点にも5つのシールが貼ってあり、支持が大きかったところです。「川崎モデルをつくる」という意見にもシールが7つ貼ってあります。

第3グループは、「PR力を高める、伝える力を持つ」という意見に7つシールが貼ってあります。「魅力を高めるための改善点」という意見にも票があり、健康づくりもキーワードになっています。

今日のキーワードは、4つ挙げさせて頂きたいと思います。

1つ目は、第1グループで挙げられた「キラキラ感」です。何がキラキラ感なのかは、明確ではないわけですが、だからこそ惹きつける言葉だと思います。

2つ目は「断トツ」というキーワードです。「イメージづくり」という意見もありますが、「断トツ」の方が特徴的な表現かなと思います。断トツというのは、川崎において、いろいろな分野で活躍している人を活かしていくということだと思います。他の都市、あるいは海外でも、まねできない断トツのものをつくるということは非常に大事だと思います。

3つ目は「コラボ」と「パッケージ」です。第2グループでは「連携」という言葉で表わされています。「コラボ」、「パッケージ」として、行政、民間がやるべきことを区別なく繋げていき、パッケージ化して売りこむということだと思います。個々の魅力も重要ですが、それらをパッケージ化すると魅力が2倍、3倍になっていくという発想と理解し、これらを3つ目のキーワードに挙げます。

4つ目は、第3グループの「PR力」、それから「受け取る力」です。「PR力」は発信の側ですが、「受け取る力」は、他の地域の魅力なども受け取り、川崎の魅力として取り込んでいく力や、市民が情報を受け取る力をもつことだととらえると、汎用性のあるキーワードだと思います。

(山下博子委員)

今までの議論の中で、地域の支え合いが重要だという点が一番注目されてきています。その「地域の支え合い」のは誰が担うのかを議論できたらいいと思います。実際には、地域に住んでいる人がやらないと誰もやってくれないわけで、今ある自治会とか、町内会とか、いろいろな組織がありますが、担い手不足で成り立たないというところが多いようです。それをみんなで参加して、作り直していくということが重要です。具体的な案はありませんが、市民一人ひとりが自ら参加することで、受け取る力もついていくのではないかと思います。市政だよりで発信していても届かないということが問題として挙がっていましたが、地域でいろいろやらなくちゃいけないという問題について、それを誰が実現するのかという点をもっと議論しなければいけないと思います。

市長コメント

(福田市長)

今日も午前中から熱心にご議論頂きましてありがとうございました。素晴らしい意見がいっぱい出ていました。「キラキラ感」や「断トツ」というのは前向きで素晴らしい言葉だと思います。川崎には、資源や魅力が数多くあり、あり過ぎて絞り切れてないという印象です。例えば、事務局からの説明の通り、プロスポーツとのパートナーシップは、現在6チームと締結していますが、これほど多くのプロスポーツチームと連携して、子どもたちに教えている都市は他にないと思います。あるいは、環境先進都市であることも魅力になります。あるいは、昨今、水素元年と言われていますが、一番進んでいるのはおそらく川崎だと思います。いろいろな魅力があり過ぎて、例えば音楽のまち、読書のまち、映像のまちと、枚挙に暇がないと思います。一つ一つは大切でありながら、ここにお集まりいただいている関心の高い皆さんであっても、初めて知ったことがあると思います。そういった川崎の持っている魅力を、もう一回再発見すると同時に、世界や日本全国に発信することをうまく組み合わせていくことが重要です。市政だよりも、来年からは、編集の段階から民間企業を入れることにいたしました。今までは、行政として伝えたいことをたくさん載せていたのですが、しかし、それは伝えたい側の論理ではないかということで、読む側として重要な点、興味を引く点に着目する視線を持って、市政だよりをつくっていかなければいけません。会議で話し合われたPR戦略、ターゲット、コンテンツ、媒体について、いかに効果的に発信するか、現在シティプロモーション戦略の中で検討しております。民間と連携した情報

発信などは特にそうですが、今年1月にテレビ放映された箱根駅伝のCMで、東芝が、「川崎市と共同で水素利用の実証実験開始」というテロップを流しました。このCMには、川崎市は1円もお金を払っていませんので、こうしたコラボによって、お金をかけることなく、川崎市のブランド価値を高めていくことができます。川崎のよいところは、民間企業との垣根が非常に低いところで、民間の力をどれだけ川崎に取り入れて市民に還元するか、このサイクルを利用しなければいけないと思っております。今日は、たくさんの良いご意見をいただきましたので、しっかりと活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

閉会

(司会 唐仁原都市経営部長)

磯崎先生、委員の皆さま、本日は日曜日にお集まりいただきまして、また活発なご議論をいただきましてありがとうございました。

2点ほど連絡事項がございます。

1つ目ですが、本日お手元にお配りしている「意見シート」にご記入の上、お帰りの際に受付の職員にお渡しください。

2点目ですが、次回は第4回全体会の開催となります。4月25日(日)9時半から12時半を予定しておりますので、よろしくお願いたします。後日、事務局より詳細のご連絡をさせていただきます。

それでは、以上をもちまして、「総合計画市民検討会議 第3回全体会」を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

以 上